

# 令和4年度第1回 成田市まち・ひと・しごと創生推進会議会議録

## 1 開催日時

令和5年3月14日（火） 午後2時～午後3時30分

## 2 開催場所

成田市花崎町760番地  
成田市役所本庁舎3階 第2応接室

## 3 出席者

（委員）

関根座長、宇野澤副座長、鈴木委員、田中代理、青木委員、榎森委員、寺内委員、宮崎委員、吉高委員、加瀬委員

（事務局）

企画政策部 木下部長

企画政策課 金光課長、稲阪課長補佐、木内係長、関主任主事、鵜田主任主事

## 4 議事（要旨）

○KPIの進捗状況について

- ・「成田市まち・ひと・しごと創生総合戦略」で設定している数値目標や重要業績評価指標（KPI）等の各種指標の進捗状況及び増減理由等について説明を行った。

○企業版ふるさと納税について

- ・本市では今年度より受入を開始した当該制度の概要と実績について説明

○その他

- ・国の地方創生に関する動向として「デジタル田園都市国家構想総合戦略」についての制度概要について説明し、今後、本市の総合戦略の改訂可能性があることについて言及した。

## 5 質疑等

□ KPIの進捗状況について、達成率が極めて低く、目標年での達成が極めて困難と思われる指標について下方修正する必要性はないのか。

→ 達成率は平成31年度の目標値に対する実績値の割合で表されており、項目によっては基準値の時点で高い達成率となる。一方で、巡航速度比は基準値と目標値の差を年割りにして算出しており、達成率が高くても巡航速度比の基準に達していなければ、

「△」が表示される。

□ 農業イベントの参加者数など、実績値が低く、目標値とかい離している項目があるが、目標値の変更は行わないのか。

→ 昨年度の策定段階で達成を目指して設定した目標であり、今年度は当該総合戦略の初年度でもあることから現時点では下方修正せずに取り組んでまいりたいと考えている。

□ コロナによる税収への影響はどの程度か。

→ 成田市の税収で多くの割合を占めるのは税収に経済的な影響を受けにくい固定資産税であるが、個人住民税や法人市民税などは減収が大きくコロナの影響を大きく受けた。

しかしながら、企業や個人の経済活動の回復に従って、全体の税収額も回復傾向にある。

□ ふるさと納税制度で他市などに流出する額や経費などに生じる支出額はどの程度か。

→ 本市への寄付金額が3億6,700万円に対し、他市への流出額は約2億8,200万となっている。また経費は1億円弱を支出しているが、これは返戻品としている本市の特産物のPRを実施することで本市の観光PRにもつながり、本市全体の経済面にも波及効果が見込めることから、全体としてはプラスになっていると考えている。

□ 市民アンケートの対象者数と回答数は何人か。

→ 18歳以上の市民2,000名を無作為抽出してアンケートを実施し、回答数は約800人である。

□ 総合戦略でKPIを設定する基準値において、コロナの影響が大きい令和2年としているが、コロナ前の平成30年もしくは令和元年の数値を基準とするのが妥当ではないか。

→ 基準値としてはコロナの影響を受けた令和2年度の数値を基準値としている指標もあるが、コロナの影響がいつまで続くか不透明なこともあることから、影響の大きい指標については令和2年度の実績値を採用したものもある。計画期間である3年の間にコロナ前の実績と同程度もしくは実績以上に回復させるよう努力してまいりたいと考えており、それに見合った目標値を指標ごとに算出している。

しかしながら、確かに現在の指標ではコロナ禍以前の数値が分かりにくいいため、資料で数値比較できるようにして提供したい。

□ 「放課後こども教室の登録者数」について、目標値を達成しているが上方修正する必要はないのか。

→ 現在9つの小学校で実施している事業であるが、そのうち美郷台小が現時点で未実施であることに加え、次年度以降も現在実施している9つの小学校すべてで実施できるかが不透明であることから現状維持としたが、今後も目標値を上回る実績を継続できるよう取り組んでまいりたい。